

# ジェネリック医薬品に関するアンケート

## 集計結果と分析

令和元年12月実施

令和2年3月集計分析



# ジェネリック医薬品に関するアンケート概要

## 1. アンケートの目的

協会けんぽ奈良支部加入者のジェネリック医薬品に関する意識調査を実施し、結果をホームページや外部の会議等で意見発信を行うことにより、ジェネリック医薬品の普及促進につなげる。また、当支部において各種広報物を作成する際の資料としてアンケート結果を使用する。

## 2. アンケートの実施時期

令和元年11月29日～令和元年12月25日

## 3. アンケートの調査対象・回収部数

- ・アンケート対象：健康保険委員（健康保険サポーター） ※の2,077名に対して、1名につき1～4部の提出を依頼。（合計5,800件）
- ・アンケート回収部数：1,816件（回収率31.3%）

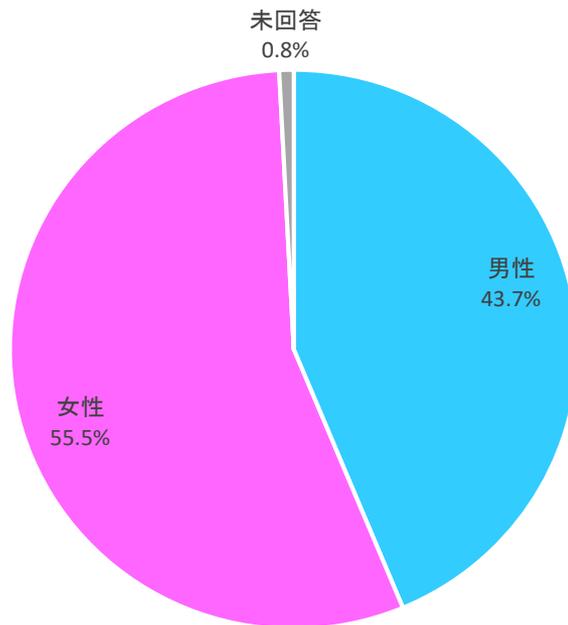
※健康保険委員：協会けんぽの健康保険事業の推進のため、広報・相談・モニター等にご協力いただく被保険者の方を「健康保険委員」として委嘱している。

注 回答の割合については端数処理の都合上、合計が100.0%にならないことがある。

# アンケート回答者の内訳

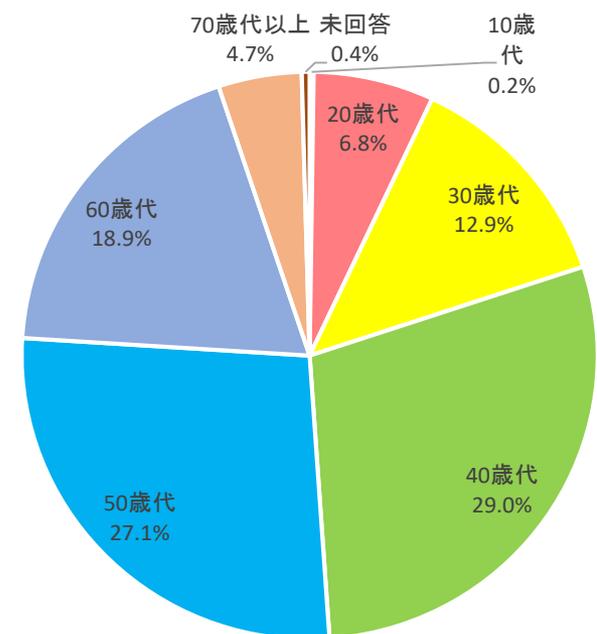
## アンケート回答者の男女比

男性	女性	無回答	総数
794	1,007	15	1,816
43.7%	55.5%	0.8%	100%



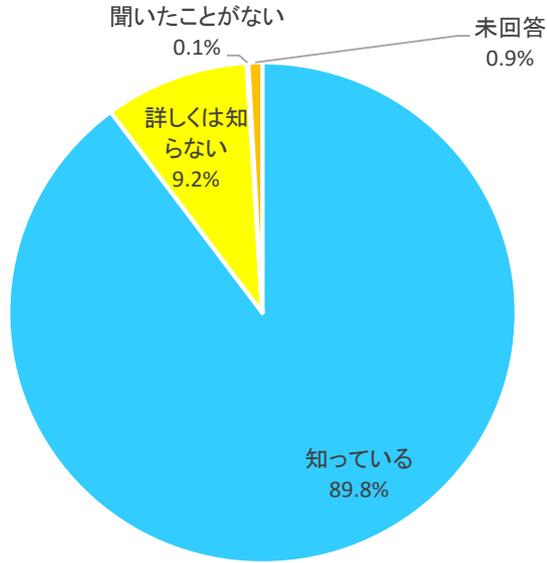
## アンケート回答者の年齢比

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代以上	無回答	総数
4	123	235	526	492	343	85	8	1,816
0.2%	6.8%	12.9%	29.0%	27.1%	18.9%	4.7%	0.4%	100%



# ジェネリック医薬品認知度について

回答者全体の認知度

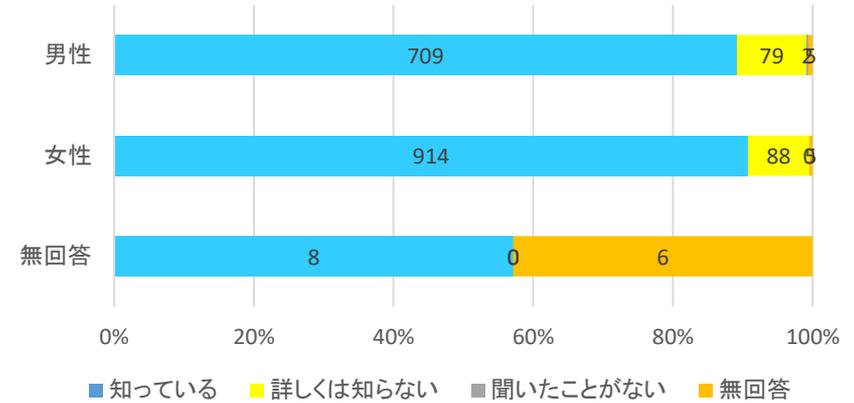


知っている	詳しくは知らない	聞いたことがない	無回答
1,631	167	2	16
89.8%	9.2%	0.1%	0.9%

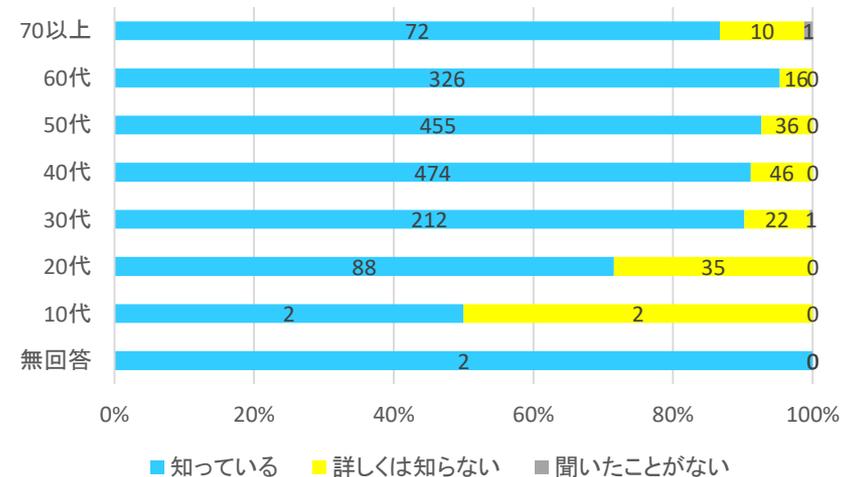
ジェネリック医薬品に関しては、約90%の方がご存じでした。男女でもその割合はほとんど変わりませんが、年代別にみると、若年層でやや認知度が低い傾向がみられました。



男女別の認知度

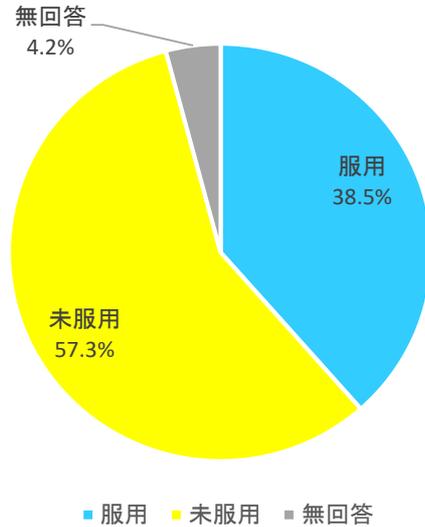


年代別の認知度



# 日常的な薬の服用について

回答者全体の日常的な薬品の服用割合

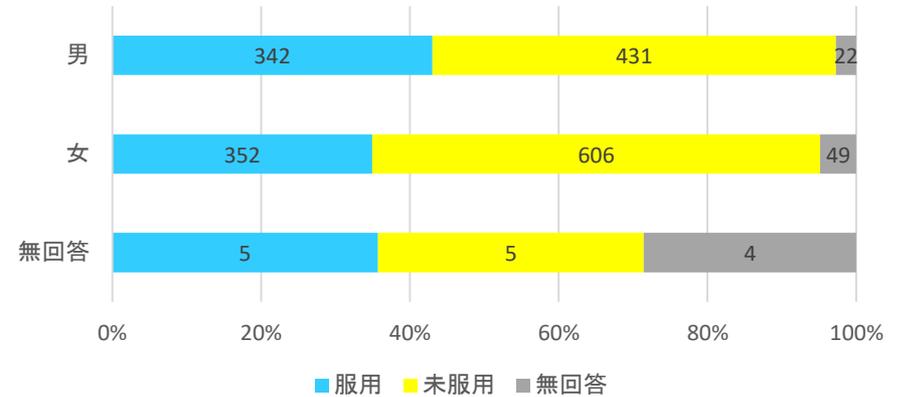


服用	未服用	無回答
699	1,041	76
38.5%	57.3%	4.2%

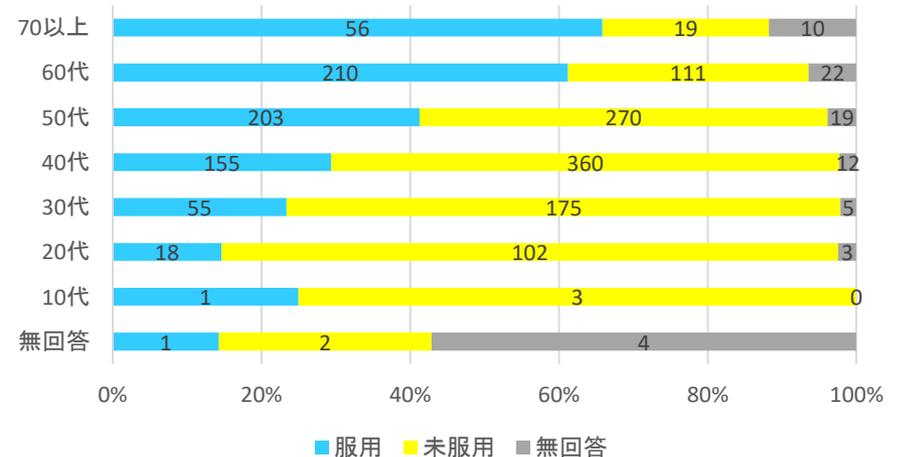
日常的に何らかの医薬品を服用されている方は、全体の約4割でした。回答者は女性が多かったのですが、服用者の割合は男性が多く、年代が上がるにつれて、医薬品を服用する割合も増えていきます。50代までは、日常的に医薬品を服用している方は半数に満たないものの、60代以上になると6割以上の方が何らかの医薬品を服用しているという結果でした。



日常的な薬品の服用割合（男女別）

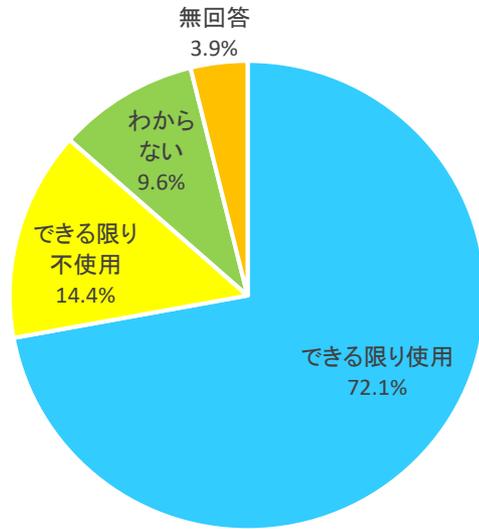


日常的な薬品の服用割合（年代別）



# 日常的に医薬品を服用している人のうち ジェネリック医薬品を使用している人の割合

全体のジェネリック医薬品使用割合



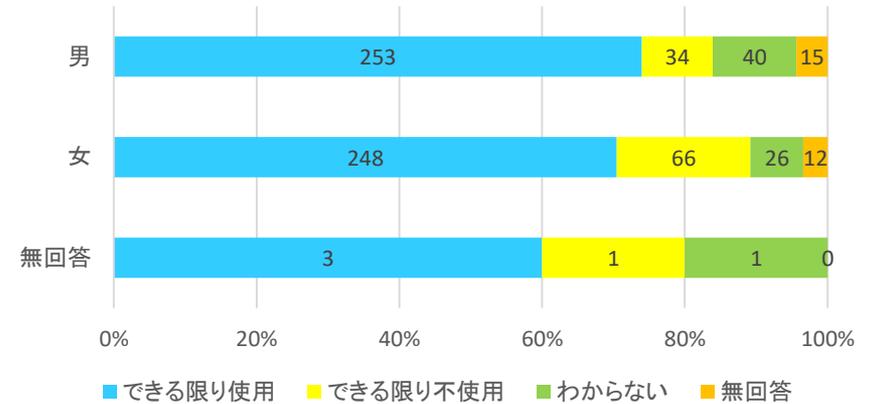
できる限り使用	できる限り不使用	わからない	無回答
504	101	67	27
72.1%	14.4%	9.6%	3.9%

令和元年11月実績で、奈良支部のジェネリック使用割合（数量ベース）は72.4%でした。今回の調査においても、「できる限り使用」と回答していただいた割合は72.1%で、ほぼ実績を反映した結果となっています。

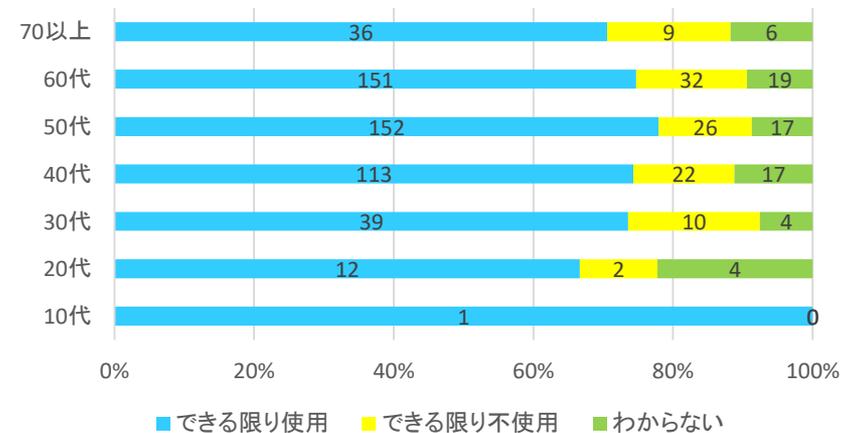
男女別、また年代別みると、「女性」と「60代以上」において「できる限り不使用」の割合がやや高くなっています。



男女別のジェネリック使用割合

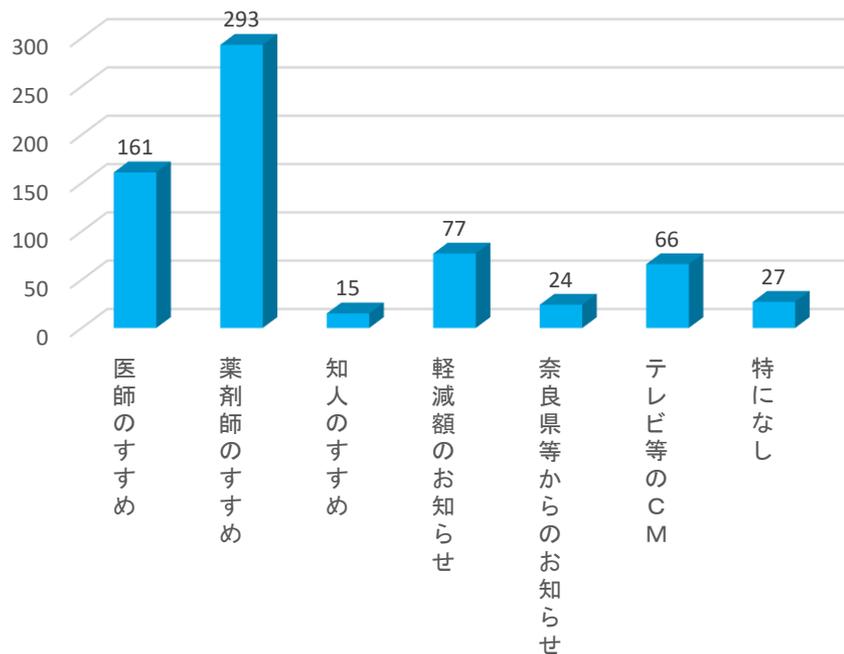


年代別のジェネリック使用割合

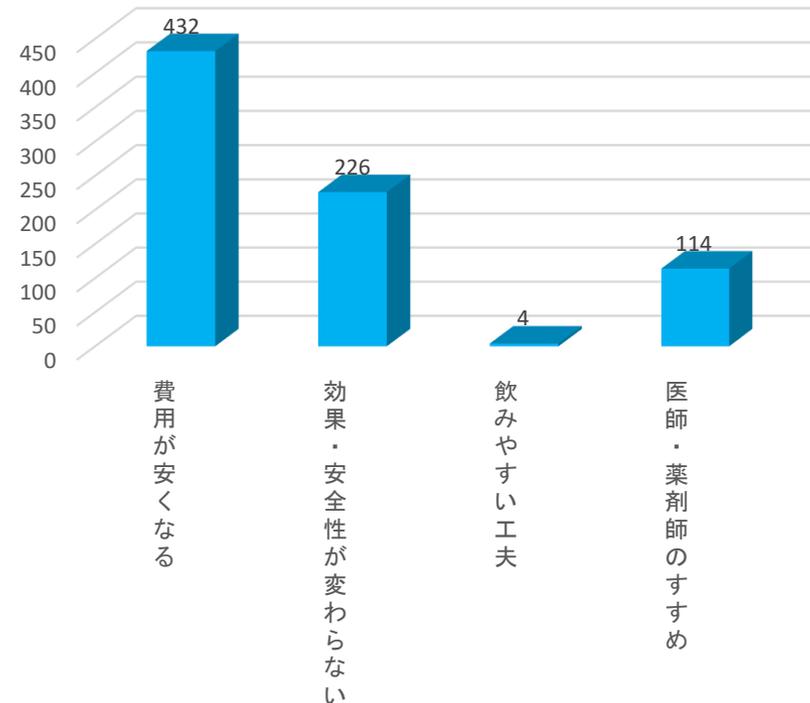


# ジェネリック医薬品を 日常的に使用している人への質問

ジェネリック医薬品を使用し始めたきっかけ（複数回答）



ジェネリック医薬品を使用しているポイント（複数回答）



## その他 記述回答

- \* 安いから。
- \* 新聞等のニュースなど。
- \* 自己で考えて、医療財政の改善の為。
- \* 医療費（自己負担）を抑えたい。
- \* 前職の健康保険組合からのすすめ。
- \* 医者との調整（相談）。
- \* 院内薬局で働いていたため。

医師や薬剤師のすすめがきっかけとなってジェネリック医薬品を使用し始め、安価で経済的であることが使用し続けている大きなポイントになっています。効果や安全性がそれに次ぎ、費用対効果が選択のポイントとなっています。

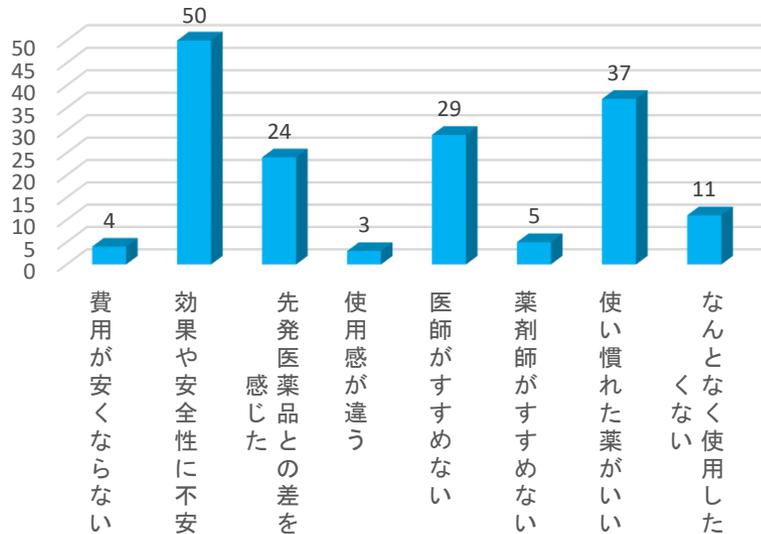


## その他 記述回答

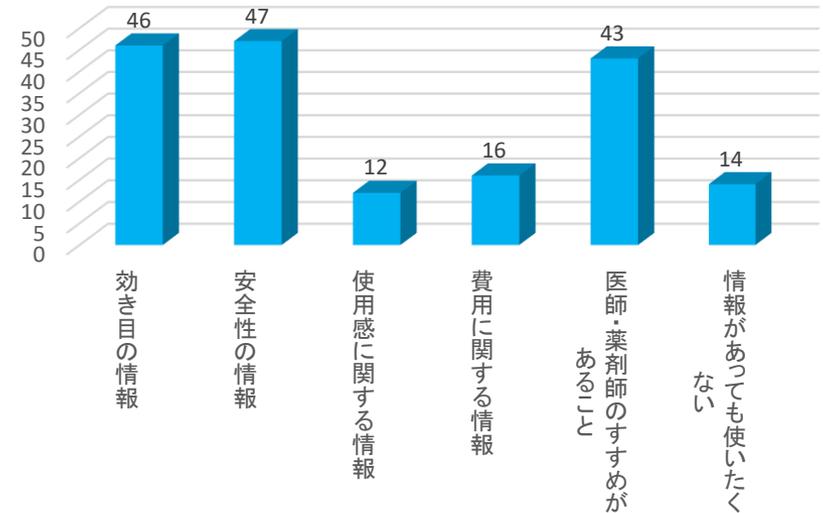
- \* 本人の意思とは関係なし。
- \* 全体の費用負担軽減。
- \* 少しでも保険財政に協力ができればと思います。
- \* あまり考えていない。

# 日常的に医薬品を使用しているが ジェネリック医薬品を使用していない人への質問

ジェネリック医薬品を使用しない理由（複数回答）



どのような情報でジェネリック医薬品を使用してみようと思うか（複数回答）



## その他 記述回答

- \* 服用薬にジェネリックがない。
- \* 漢方薬の為。
- \* 薬効に差がある。治験が無いため、先発薬と同等から全く効能を感じる事ができない薬品まである。一定の効能規定が望まれる。
- \* かかりつけ医院に置いていないから。
- \* 以前、副作用がでたから。

## その他 記述回答

- \* 外国産原材料を使用しない。
- \* 院内で処方してもらえたら。
- \* かかりつけ医院に置かれたら。
- \* 信頼性が重要。
- \* 使用者のアンケート調査結果等。
- \* 病院が処方すれば使いたい。

ジェネリック医薬品を使用しない理由として、効果や安全性への疑問が根底にあるようです。効果や安全性に関する、正確で信頼できる情報があれば、使用してみようと思う方が多いことからそれがうかがえます。その信頼できる情報として、医師や薬剤師からのすすめが重要であることは、使用しない理由として「医師がすすめない」という回答が多いことからわかります。



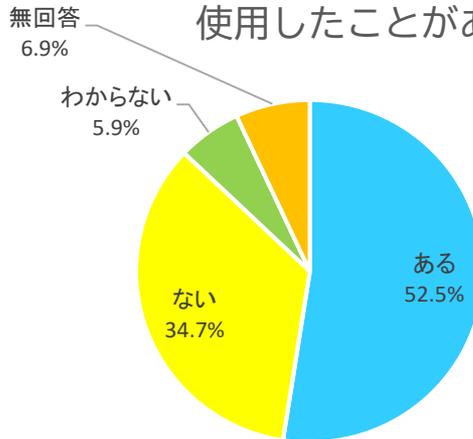
# ジェネリック医薬品を使用しない人への質問

自己負担額が1,000円の高額医薬品の場合、  
ジェネリック医薬品が何円であれば変更してもよいか。



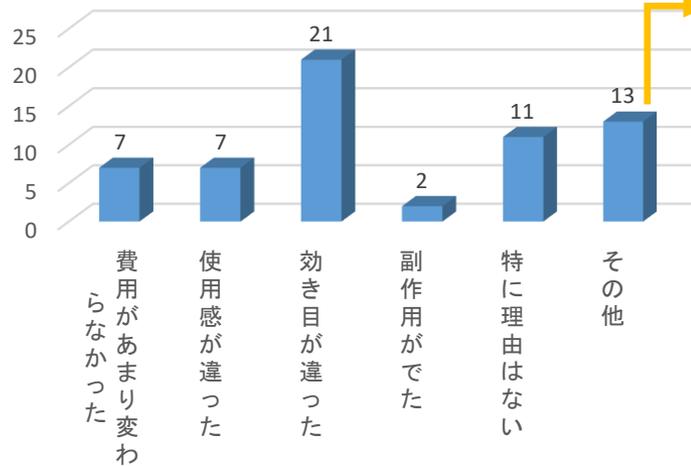
900円	0	0.0%
750円	9	8.9%
500円	31	30.7%
300円	6	5.9%
100円	7	6.9%
どれだけ安くても使わない	38	37.6%
無回答	10	9.9%

過去にジェネリック医薬品を  
使用したことがあるか



ある	53	52.5%
ない	35	34.7%
わからない	6	5.9%
無回答	7	6.9%

過去に使用し現在使用していない理由  
(複数回答)



その他の記述回答

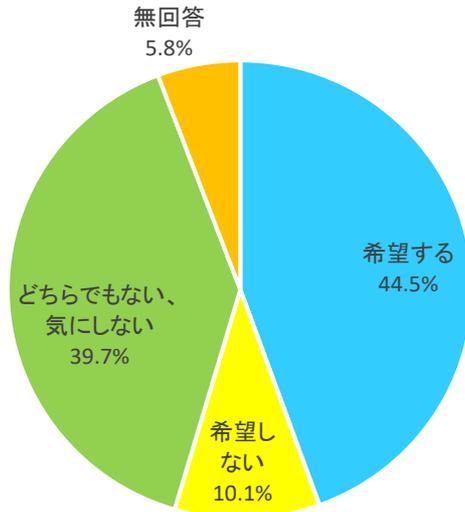
- \* 効き目、安全性への疑問。
- \* 担当医がすすめない。
- \* 服用薬にジェネリックがない。
- \* 院内で処方されないから。
- \* 薬局のすすめがなかったため。
- \* 担当医の変更に伴う処方変更。

高額医薬品に対し、ジェネリック医薬品がいくらであれば使用してもよいかという質問への回答で最も多かったのは、「どれだけ安くても使わない」でした。また、過去にジェネリックを使用していたものの、現在は使用していない理由として「効き目が違った」が最多で、やはり、費用面よりも効果や安全性にポイントがあるといえます。



# 日常的に医薬品を服用していない人への質問

医療機関を受診する場合、ジェネリック医薬品を希望するか。



希望する	463	44.5%
希望しない	105	10.1%
どちらでもない、気にしない	413	39.7%
無回答	60	5.8%

ジェネリック医薬品を使用するかどうかの仮定質問でしたが、明確に「希望しない」と回答した方は1割で、その理由は効き目と安全性への不安であることがわかります。逆に「希望する」とした理由は安価であることが大きな理由となっています。

今回の調査では、4割の方が「どちらでもない、気にしない」と回答されていますが、効き目や安全性や費用面についてどのように伝えていくかがジェネリック使用率向上のための課題だと考えられます。



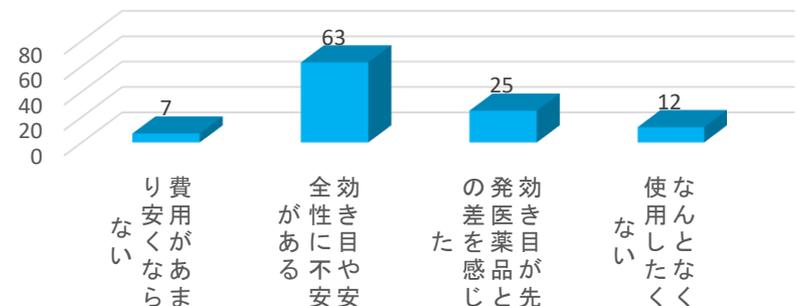
希望する方へ 希望する理由（複数回答）



「希望する」とした人の記述回答

- \*薬によっては使用しない。
- \*安全性と効力が保証され、医師がすすめれば使用する。

希望しない方へ 希望しない理由（複数回答）

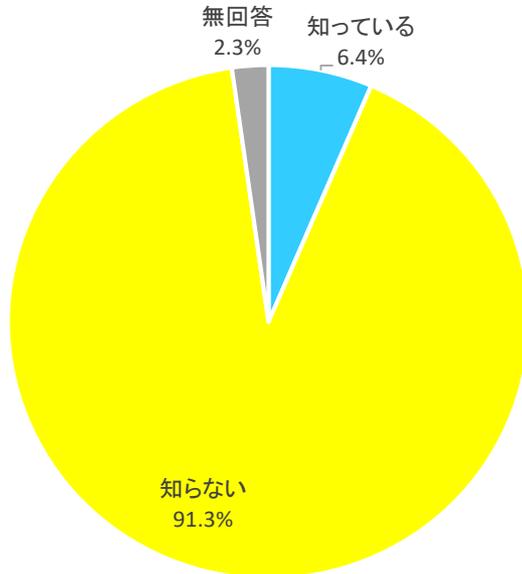


「希望しない」とした人の記述回答

- \*新薬の方が高くてもいいと思うため。
- \*医者がすすめなかったの。

# オーソライズドジェネリック医薬品の認知度について

回答者全体の認知度

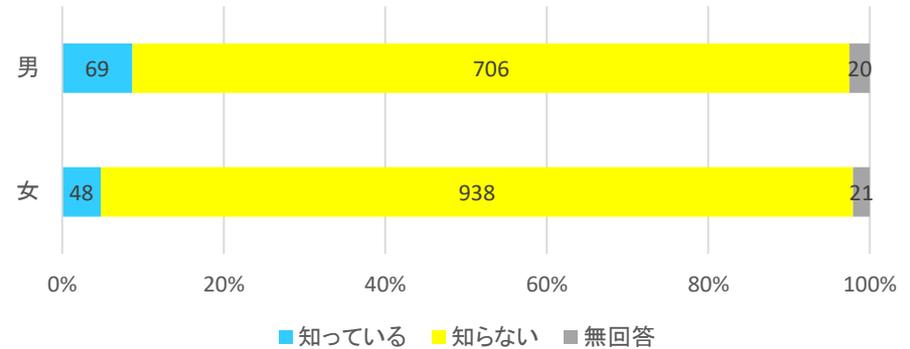


知っている	117	6.4%
知らない	1,658	91.3%
無回答	41	2.3%

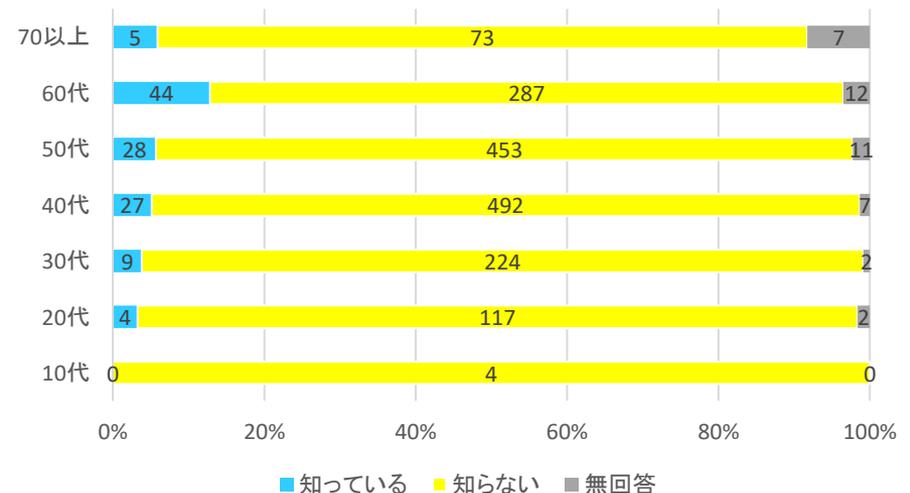
全体的に認知度は極めて低いのですが、女性よりも男性、年代では高齢層の認知度がやや高い傾向がでてます。ジェネリック医薬品の使用をさらに普及させていくために、「オーソライズドジェネリック医薬品」を周知していくことも、効果的な手立てであると思われます。



男女別の認知度

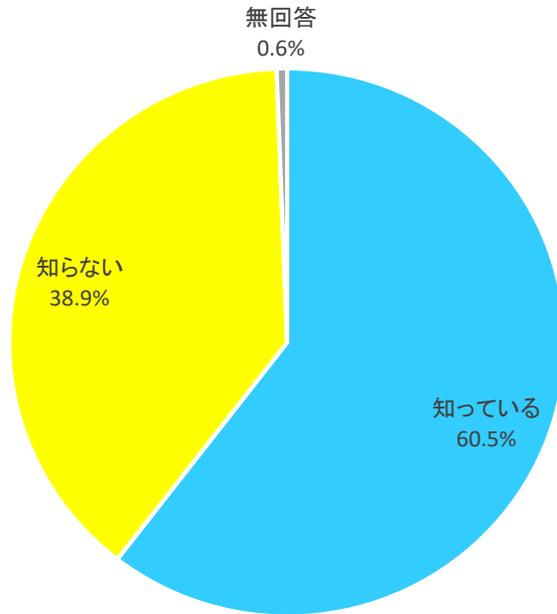


年代別の認知度



# ジェネリック医薬品を使うことが、健康保険の財政状況改善につながることの認知度

回答者全体の認知度



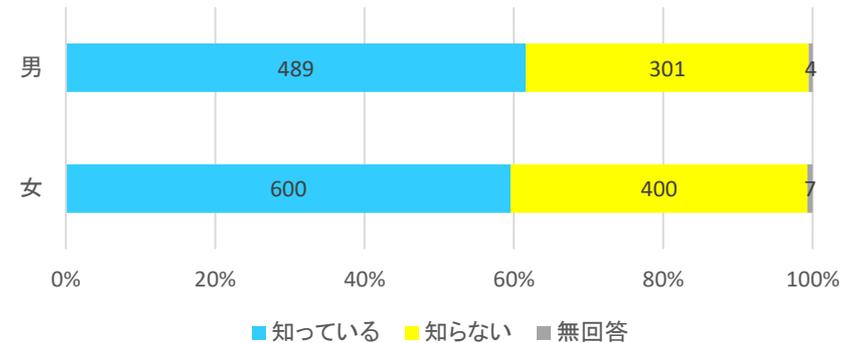
知っている	1,098	60.5%
知らない	707	38.9%
無回答	11	0.6%

ほぼ6割の方が認知されています。年代別（10代は除く）にみると、年代が上がるにしたがって認知度も上がっています。これは医薬品の服用率とも連動しています。

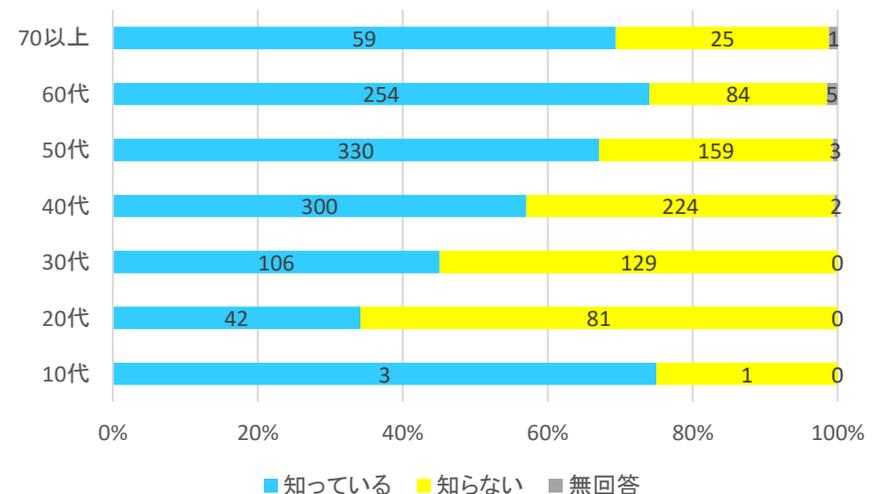
反面、4割の方が認知されておらず、若年層（10代以外）では5割以下となっていますので、医薬品を使用していない段階から、健康保険財政改善につながることを周知することで、将来的にジェネリック医薬品の普及につながると考えられます。



男女別の認知度

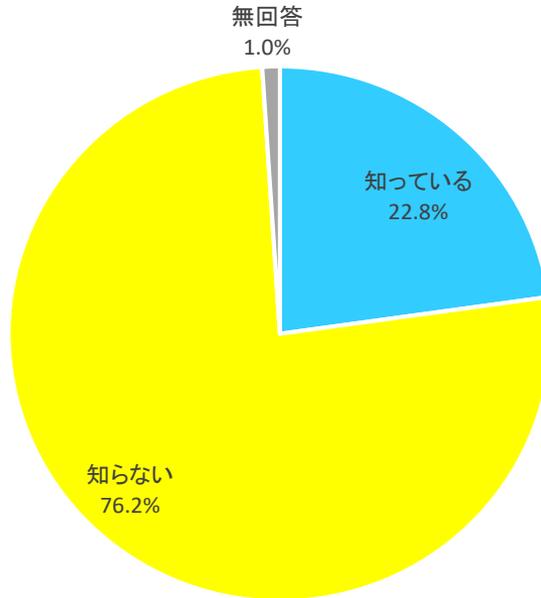


年代別の認知度



# インセンティブ制度の認知度について

回答者全体の認知度

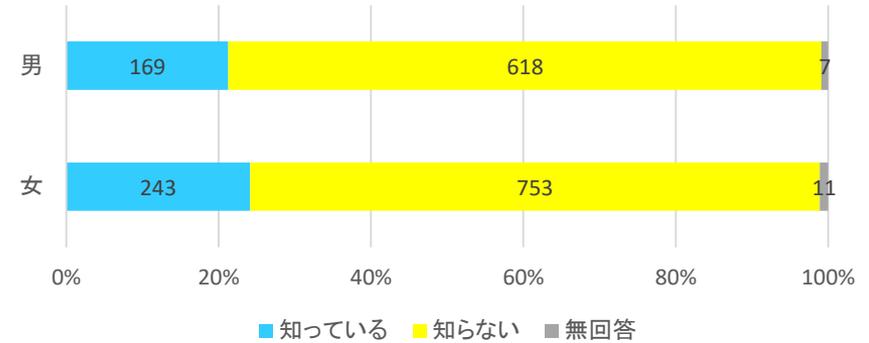


知っている	414	22.8%
知らない	1,383	76.2%
無回答	19	1.0%

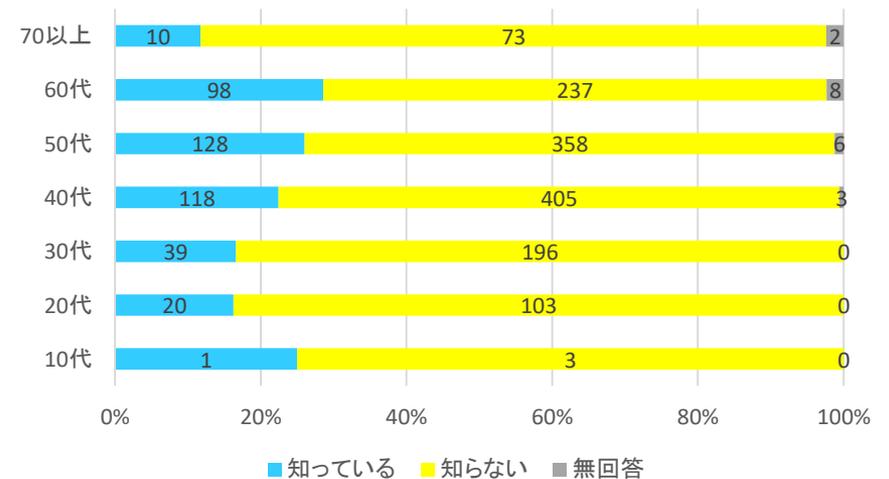
インセンティブ制度が始まって2年目を終えようとしていますが、その認知度はまだまだ低いようです。当支部のこれまでの広報の在り方を再点検し、制度を周知していく必要があります。制度の趣旨を徹底することにより、ジェネリック医薬品の使用割合向上も期待できると考えます。



男女別の認知度

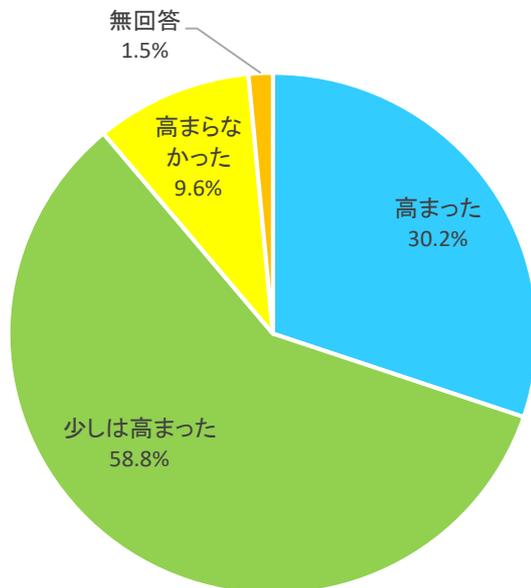


年代別の認知度



# アンケートを通じたジェネリック医薬品への興味・関心の高まりについて

回答者全体の割合

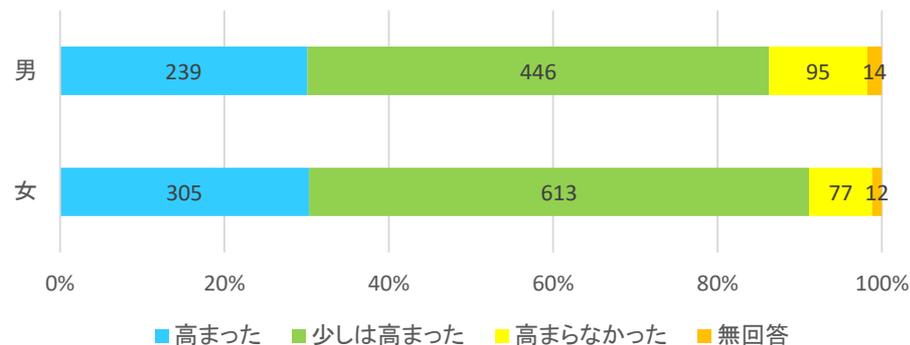


高まった	548	30.2%
少しは高まった	1,067	58.8%
高まらなかった	174	9.6%
無回答	27	1.5%

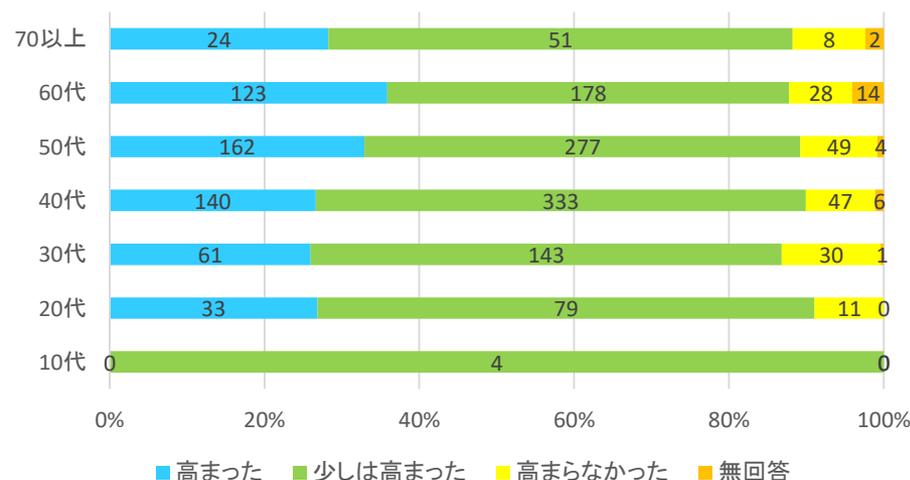
「少しは高まった」も含めると、全体的には約9割の方が興味・関心の高まりを感じているようです。しかしながら、「少しは高まった」という曖昧な選択肢（いわゆる「よい」「ふつう」「わるい」の「ふつう」）に回答が集中し、「高まった」という積極的な回答に結び付いていないのは、今後の取り組みに対して改善すべき大きな課題を残すこととなりました。



男女別の割合



年代別の割合



## 問13 自由記述

- \* ジェネリック医薬品使用する事により健康保険財政状況が改善されると言われていますが、開発費もかかっていないジェネリック医薬品メーカーは、もっと価格を下げられるはずで、利益取りすぎています。価格をもっと下げる様に働きかけるべきです。
- \* ジェネリックを使用することで健康保険の財政状況を改善できるのか疑問。もっと薬の使用を減らすとか、かぜ薬、シップ薬とか外で販売されている薬と同等の負担をもとめるとか、一年間の薬負担額をきめて、それ以外は自費にするとか他の方法があると思う。
- \* ジェネリック医薬品がある場合は、自動的に移行するように制度化すればいいと思う。
- \* 高血圧の薬を服用しておりますが、薬剤師さんからジェネリック医薬品に変更すると、効果も変わらないし費用も安くなると聞き、現在はジェネリック医薬品を服用しております。以前の薬とジェネリック薬との価格の差をあまり感じないように思いますので、具体的に価格差を知らせていただければ納得もできますし、今後利用される方も増えて来るのではないのでしょうか。

ご多忙の中、  
アンケートに  
ご協力いただき  
ありがとうございます  
でした。

